

シグマ研究委員会 昭和59年度第7回運営委員会議事録

日 時 昭和60年1月28日(月) 13:30~17:00
場 所 国立教育会館204号室
出 席 者 梶山(東北大), 中嶋(法大), 村田(NAIG),
五十嵐, 菊池, 松浦(原研)
オブザーバ: 飯島, 川合(NAIG), 北沢(東工大), 松延(住友
原工), 浅見(原研)

配布資料

1. 前回(59.12.21)議事録(案)
2. 原子力研究交流制度発足(原産新聞記事)
3. NEACRP Chairmanから白方氏への手紙(写し)
4. International Symposium on Fast Neutrons in Science and Technology, Chiang Mai, Thailand
5. 昭和60年度シグマ特別専門委員
6. 核データWG活動報告
7. ガンマ線生成核データWG
8. FP核データWG活動報告
9. ガンマ線生成核データWG
10. ガス生成核データサブWG
11. 中重核データサブWG

議 事

1. 前回議事録確認
資料1により確認を行った。
2. 事務局報告
(1) NEANDC アンケート調査: 五十嵐氏から先般行った核データ研究者について報告があった。核データの利用者・学生も含めて約140件の回答があった。

(2) 日中技術協力協定：五十嵐氏から資料2を参照して、日中技術協力協定の中の協力分野に核データが加わる可能性が高くなったとの紹介があった。

3. 学会特別会合

村田氏から1月12日の学会のプログラム委で核データ・炉物理合同特別会合の日程等が次のように決まったと報告があった。（教研略）

・ 3月29日 13時～15時 座長（東北大）梶山一典

1. 科研費特別研究によるTh炉の炉物理・核データの研究

（京大炉）柴田俊一

2. 熱およびkeV領域中性子全断面積の測定（武工大）相沢乙彦

3. 臨界安全解析計算の現状（原研）野村靖

また、来年度から3つの研究専門委員会（ミュ-中間子触媒核融合、中性子照射損傷評価、燃料高性能化）が新設されることになったことが報告された。

4. 60年度委員発令

浅見氏から、内規によると本委員の任期は2年であり、60年度はその2年目に相当することから、改選の手続きは不用で、特別の変動がない限り59年度の本委員をそのまま発令することになるとの報告があり、資料5のリスト通り手続きをとりたいとの説明が了承された。これに関して、田中茂也氏の代りに原研核2の室長を加えることが提案され、次の本委員会に掛けて迄式決定した上で手続きをとることとした。

5. 核データニュース編集委員会報告

浅見氏から、資料6により1月18日の第1回の編集委員会について報告があった。その中で、新しい体制での核データニュースの発行は本年5月から行うことから、来年度末に委員の半数（2年任期）が交付することになる等の説明があった。この説明に対して、投書のようなものも扱うようにして欲しいとの要望があった。

6. 資料の紹介

五十嵐氏から次の2件の資料の紹介があった。

(1) 資料3： NEACRPのchairmanから白方氏宛のJEFへの協力についての手紙

(2) 資料4： タイのChiang Maiで行われるfast neutronに関する国際シンポジウムのプログラム。

これに関して、五十嵐氏から本年5月のSanta Feでの会議へ提出する論文

のリストを事務局へ送って欲しいとの要請があった。また、JEFのレポートをまとめて紹介して欲しいとの要望が出た。

7. 学会関係

松延氏から原子力学会の学会費の選考過程についての中間報告があった。

8. 60年度シグマ委員会活動計画

五十嵐氏から次の各項について、それぞれ説明があった後、討議を行った。

- (1) 核データ研究会： 60年度研究会の準備委員には、59年度の準備委員全員がもう一度やって欲しいとの説明があり了承された。
 - (2) 2年報： 60年度は通称2年報を出す年なので、なるべく早く編集委を発足させたいとの説明に対し、これまでの慣例で前回の編集委の半数が交代することによっているとの話があり、議事録で留任する委員を調べることにした。また、編集委員長は、川合氏（NAIG）に依頼することにした。
 - (3) JENDL-3以後の問題の検討： JENDL-3は62年3月完成の予定であるが、それ以降の問題について検討するためad-hoc委員会を設けたいとの説明があった。
 - (4) 核データニュース： 広報活動を強化してゆくための1つの手段として現在の核データニュースの編集・発行を改善してゆくとの説明があった。
- これらの説明、討論に関連して、60年度の研究会の日程・性格について、また、東南アジア諸国との協力についてのシナリオづくり、このため運営委の任務等についての議論が行われた。

上記の(3)に関連して、飯島氏から資料7を用いて、特殊目的核データファイル作成についての提案があった。討議の結果、ad-hoc委員会を設けて検討することにし、そのメンバーの人選を飯島氏、菊池氏に一任し次回に報告してもらうことにした。

9. ワーキンググループ活動報告

(1) FP核データWG

川合氏から資料8により59年度活動の概要と60年度の計画について報告があった。

これに対して、JENDL-3 FP fileとgeneral fileとの関係、JENDL-3 FP fileの完成予定等について質疑応答があった。

(2) ガンマ線生成核データWG

北沢氏から資料9により、59年度活動と60年度計画について報告があっ

た。

これに関して、ガンマ線データの群定数の処理、GNASHの整備状況について質疑応答があった。

(3) 実験法評価サブWG

村田氏から、重核データサブWGと一緒に報告した方が良いとのことで、59年度作業だけの簡単な報告があった。

これに対して、重核データサブWGとの今後の協同作業、covariance 評価の実状、当サブWG本来の作業の報告書の作成等について質疑応答があった。

(4) ガス生成核データ・サブWG

飯島氏から資料10により59年度の作業状況と60年度の作業計画とともにしきい反応データの現状についての説明があった。

これに関連してガンマ線生成核データWGとの整合について質疑応答があった。

(5) 中重核データ・サブWG

菊池氏から資料11により59年度の活動状況と今後の活動予定について説明があった。

これに関連して、計算コードCASECISとDWBA計算との計算時間の比較についての質疑応答、Feなどの結合チャンネル計算についての議論が行われた。

次回は3月15日(金) 午後、東海研で行う予定。